

【3】教員の勤務上の課題について

調査項目

1. 児童・生徒指導－「いじめ」について→幼稚園は調査対象外となります。

※R5年度に貴学校園で発生した、「いじめ」について以下の設問にご回答ください。データの取り扱いには慎重を期し、公になるのは統計的に処理した結果に限られますので、趣旨をご理解の上ご協力ください。

1-1. いじめの認知件数に付いて、①-⑤から選んでください。

①0 ②1～10 ③11～30 ④31～70 ⑤71以上

1-2. 警察に通報・相談した件数を、①-④から選んでください。

①0 ②1～3 ③4～9 ④10以上

1-3. いじめの実態把握のためのアンケート等の実施回数を、①-④から選んでください。

①行っていない ②年1回 ③年2～3回 ④年4回以上

1-4. いじめ防止対策推進法第28条第1項が規定する「重大事態」の件数を、①～④から選んでください。

①0 ②1～2 ③3～5 ④6以上

2. 行事や課外活動対応について

2-1. 学校行事の実施について、当てはまるものを選んでください。選択肢にない主な行事で、コロナ禍前よりも規模の縮小や削減を行ったものがあれば「その他」に記してください。

→幼稚園もご回答ください。（複数選択可）

- ①運動会／体育祭は平日開催
- ②運動会／体育祭は半日程度で実施
- ③運動会／体育祭は隔年開催
- ④運動会／体育祭の規模はコロナ禍前とほぼ変更なし
- ⑤文化祭（及び相当する発表会等）は平日開催
- ⑥文化祭（同）は半日程度で実施
- ⑦文化祭（同）は隔年開催
- ⑧文化祭（同）の規模はコロナ禍前とほぼ変更なし
- ⑨遠足等の学外引率行事の回数や規模を縮小
- ⑩その他（ ）

2-2. 部活動改革について取り入れているものを選んでください。一部の部活での先行実施でも構いません。（複数選択可）→幼稚園・小学校は調査対象外となります。

- ①外部指導者（部活指導員ではない）の任用
- ②部活動指導員の任用
- ③スポーツクラブとの連携（活動推奨含む）
- ④学生ボランティアの活用
- ⑤中体連等の大会参加取りやめ
- ⑥休日の活動時間削減（活動中止も含む）
- ⑦一部の部活動廃止
- ⑧全面廃止
- ⑨その他（ ）

2－3．部活動改革について取り入れたいと考えているものを選んでください。（複数選択可）

→幼稚園・小学校は調査対象外となります。

- ①外部指導者（部活指導員ではない）の任用
- ②部活動指導員の任用
- ③スポーツクラブとの連携
- ④学生ボランティアの活用
- ⑤中体連等の大会参加取りやめ
- ⑥休日の活動時間削減（活動中止も含む）
- ⑦一部の部活動廃止
- ⑧全部活動の廃止
- ⑨その他（ ）

2－4．学校として将来的に、部活動はどのように位置付ければよいとお考えでしょうか。

→幼稚園・小学校は調査対象外となります。

- ①場所も含め学校とは切り離れた活動にする
- ②場所は提供するが外部指導者等を入れ、活動には教員は関わらない
- ③休日の活動のみ外部指導者等が入り、平日の活動は教員が何らかの形で関わる
- ④上記①や②を基本とするが、希望する教員がいれば認める
- ⑤教員の勤務時間を考慮し活動時間を短縮した上で継続
- ⑥部活動の数を減らし、活動日数は変えずに複数の教員が担当することで負担を減らす
- ⑦現状のままでよい
- ⑧その他（ ）

【概要】

○いじめについて

- ・いじめの認知件数については認知件数が0件の割合が、全校種減少しており、昨年調査と比較すると4％減少した。いじめに対するアンテナを高くして児童生徒を見守っていく意識が高まってきていると言える。
- ・警察に通報・相談したケースについては、昨年度調査では、小中学校のみであったが、今年度は特別支援学校、中等教育学校以外の全校種で確認されている。
- ・いじめ実態把握のためのアンケート等の実施回数は、昨年度調査と比較すると実施回数を増やしている学校園が増加している。実施していない学校は特別支援学校以外の全校種で0件となった。
- ・「重大事態」は、発生している学校の割合が12.8％から15.2％に増え、いじめの早期発見・早期対応の必要性が高まっている。

○行事や課外活動について

- ・運動会等の行事は平日開催にした学校が40校から48校に増加している。全体では半日程度の開催と隔年で開催を合わせると96校から120校に増加した。一方、コロナ禍前と同一規模にしている学校も全校種で増加しており、全体で31校から65校となった。
- ・文化祭等の行事は、昨年度は規模を縮小した学校はあったものの、半日まで規模を縮小した学校や平日開催にした学校はほとんどなかった。今年度は平日開催にした学校が0校から49校に、半日程度の開催と隔年で開催を合わせると3校から47校に増加した。また、コロナ禍前と同一規模にしている学校も全体で6校から75校となり、全校種で増加した。
- ・校外引率行事についての見直しも進み、昨年度の0件から40件となり、働き方改革が一定程度進んでき

ている。

○部活動改革について

- ・部活動改革が一定程度進んできており、中学校1校を除いては何らかの部活動改革の取組を実施している。全体的には、「部活動指導員の任用」「学生ボランティアの活用」「休日の活動時間削減（活動中止も含む）」の取組が倍増した。
- ・部活動の全面廃止をしている学校も4校あり、一部の部活動の廃止も含めると16校が何らかの形で部活動を廃止している。
- ・部活動改革で取り入れたいと考えているものとしては「部活動指導員の任用」「スポーツクラブとの連携」「学生ボランティアの活用」「全面廃止」が前年度と比較して2倍以上増加した。全体としても昨年度の83件から155件と実施してみたい取組が大幅に増え、改革への課題意識の高まりが見られた。
- ・学校としての将来的な位置付けについては、「場所も含め学校とは切り離れた活動にする」は24校から16校に減っている。一定の距離を保ちながらも緩く繋がっていくことが見直されてきていると解釈できよう。一方、指導体制については、対処療法的な手法では部活動改革は不十分であることが読み取れ、実効性がある現実的な対応を進めようとしている学校が増えている。

令和6年度全附属調査委員会実態調査報告

【3】教員の勤務上の課題について

1. 児童・生徒指導－「いじめ」について→幼稚園は調査対象外となります。

※R5年度に貴学校園で発生した、「いじめ」について以下の設問にご回答ください。データの取り扱いには慎重を期し、公になるのは統計的に処理した結果に限られますので、趣旨をご理解の上ご協力ください。

1-1. いじめの認知件数について、①～⑤から選んでください。

①0 ②1～10 ③11～30 ④31～70 ⑤71以上

1-2. 警察に通報・相談した件数を、①～④から選んでください。

①0 ②1～3 ③4～9 ④10以上

1-3. いじめの実態把握のためのアンケート等の実施回数を、①～④から選んでください。

①行っていない ②年1回 ③年2～3回 ④年4回以上

1-4. いじめ防止対策推進法第28条第1項が規定する「重大事態」の件数を、①～④から選んでください。

①0 ②1～2 ③3～5 ④6以上

いじめ防止対策推進法の第2条の定義によると学校の範囲を学校教育法第1条に既定する小学校・中学校・義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校としているため、本調査では幼稚園は調査対象から外して整理した。

1-1 いじめの認知件数

	全体		小学校		中学校		特別支援		高・中等・義務	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①0	26	30	1	2	3	5	20	18	2	5
認知件数0件の割合	16%	20%	2%	4%	6%	9%	61%	64%	9%	28%
②1～10	84	77	21	19	35	37	12	9	16	12
③11～30	27	20	10	9	15	10	1	1	1	0
④31～70	13	8	10	6	1	1	0	0	2	1
⑤71以上	15	12	14	12	0	0	0	0	1	0
合計	165	147	56	48	54	53	33	28	22	18

1-2 警察に通報・相談した件数

	全体		小学校		中学校		特別支援		高・中等・義務	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①0	150	136	51	41	47	48	33	28	19	19
②1～3	15	12	5	7	7	5	0	0	3	0
③4～9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④10以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	165	148	56	48	54	53	33	28	22	19

Ⅰ－３ いじめの実態把握のためのアンケート等の実施回数

	全体		小学校		中学校		特別支援		高・中等・義務	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①行っていない	6	7	0	2	0	1	6	4	0	0
②年１回	14	19	2	4	1	6	8	6	3	3
③年２～３回	96	90	34	31	29	29	18	16	15	14
④年４回以上	47	32	19	11	23	17	1	2	4	2
合計	163	148	55	48	53	53	33	28	22	19

Ⅰ－４ いじめの「重大事態」の件数

	全体		小学校		中学校		特別支援		高・中等・義務	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①0	139	129	42	37	45	47	32	28	20	17
②1～2	24	19	13	11	8	6	1	0	2	2
③3～5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
④6 以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	164	148	56	48	53	53	33	28	22	19

○いじめの認知件数については認知件数が０件の割合が、昨年調査と比較すると４％減少した。全校種減少しており、特に高等学校、中等教育学校、義務教育学校では、２８％から９％と大きく減り、いじめに対するアンテナを高くして児童生徒を見守っていく意識が高まってきていると言える。

○警察に通報・相談したケースについては、昨年度調査では、小中学校のみであったが、今年度は特別支援学校、中等教育学校以外の全校種で確認されている。

○いじめ実態把握のためのアンケート等の実施回数は、年２～３回実施している学校園が多く、昨年度調査と比較すると実施回数を増やしている学校園が増加している。また、実施していない学校は特別支援学校以外の全校種で０件となった。また、小・中学校では年１回のみの調査の学校が少なくなっている。

○「重大事態」は、発生している学校の割合が１２．８％から１５．２％となり、微増傾向にある。昨年度調査では０件だった特別支援学校でも発生しており、いじめの早期発見・早期対応の必要性が高まっている。管理職をはじめとする教職員がいじめ防止対策基本方針に対する認識を深め、校内行動指針などの不断の見直しを行うとともに、いじめの可能性のある事案が発生した場合、いじめ防止のための校内組織に報告するかどうかの判断が、事案を発見した担任教諭、学年団教諭等に委ねられる形とならないよう、いじめの認知における組織的対応の在り方を今一度見直していく必要がある。

２．行事や課外活動対応について

２－１．学校行事の実施について、当てはまるものを選んでください。選択肢にない主な行事で、コロナ禍前よりも規模の縮小や削減を行ったものがあれば「その他」に記してください。

→幼稚園もご回答ください。（複数選択可）

- ①運動会／体育祭は平日開催 ②運動会／体育祭は半日程度で実施
 ③運動会／体育祭は隔年開催 ④運動会／体育祭の規模はコロナ禍前とほぼ変更なし
 ⑤文化祭（及び相当する発表会等）は平日開催 ⑥文化祭（同）は半日程度で実施

⑦文化祭（同）は隔年開催 ⑧文化祭（同）の規模はコロナ禍前とほぼ変更なし
⑨遠足等の学外引率行事の回数や規模を縮小 ⑩その他（ ）

2-1 学校行事の実施状況

	全体		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①運動会／体育祭は平日開催	48	40	8	4	6	4	21	20	4	2	1	3	1	3	7	4
②運動会／体育祭は平日程度で実施	118	95	34	25	39	34	21	17	0	1	0	1	21	14	3	3
③運動会／体育祭は隔年開催	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
②＋③	120	96	34	25	50	42	21	17	0	1	0	1	23	15	3	3
④運動会／体育祭の規模はコロナ禍前とほぼ変更なし	65	31	10	6	11	8	22	12	8	1	3	1	8	3	3	0
⑤文化祭（及び相当する発表会等）は平日開催	49	0	8	0	7	0	24	0	3	0	0	0	1	0	6	0
⑥文化祭（同）は平日程度で実施	45	3	10	0	11	0	7	1	0	1	0	0	16	1	1	0
⑦文化祭（同）は隔年開催	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
⑥＋⑤	47	3	10	0	11	0	7	1	0	1	0	0	18	1	1	0
⑧文化祭（同）の規模はコロナ禍前とほぼ変更なし	75	6	6	0	14	2	29	1	10	0	3	2	10	1	3	0
⑨遠足等の学外引率行事の回数や規模を縮小	40	0	8	0	10	0	13	0	1	0	0	0	8	0	0	0
⑩その他（※）	13	21	4	7	4	2	3	8	0	0	0	0	2	4	0	0

※その他

【幼稚園】

- ・周年行事の縮小
- ・運動会は種目も減らし、学年毎に実施している。
- ・園内キャンプを宿泊なしにした。
- ・作品展と発表会を合体させた。
- ・プール遊びの回数を減らした。
- ・夏祭りの規模の縮小

【小学校】

- ・体育的行事（土曜日開催）も文化的行事（平日開催）も少しずつ規模を縮小して実施
- ・運動会は種目や運営方法の変更
- ・身体接触のある相撲大会廃止

【中学校】

- ・修学旅行以外の宿泊行事や校外学習はすべて廃止
- ・上記調査内容以外の学内行事の縮小
- ・入学式や卒業式の規模を縮小
- ・文化祭は実施せず、生徒会主催で夏休みに小規模企画

【特別支援学校】

- ・今年度は運動会および学習発表会を周年記念行事として開催
- ・運動会は小学部のみ開催

○運動会等の行事は平日開催にした学校が40校から48校に増加している。また、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校では規模を縮小した学校数が増え、全体では平日程度の開催と隔年で開催を合わせると96校から120校に増加した。一方、コロナ禍前と同一規模にしている学校も全校種で増加しており、

全体で31校から65校となり、学校によって行事に対する考え方が分かれる傾向が強くなっている。

○文化祭等の行事は、昨年度は規模を縮小した学校はあったものの、半日まで規模を縮小した学校や平日開催にした学校はほとんどなかった。今年度は平日開催にした学校が0校から49校に、半日程度の開催と隔年で開催を合わせると3校から47校に増加した。また、運動会等の行事と同様、コロナ禍前と同一規模にしている学校も全体で6校から75校となり、全校種で増加した。

○校外引率行事についての見直しも進み、昨年度の0件から40件となり、働き方改革が一定程度進んでいる。

2-2. 部活動改革について取り入れているものを選んでください。一部の部活での先行実施でも構いません。（複数選択可）→幼稚園・小学校は調査対象外となります。

- ①外部指導者（部活指導員ではない）の任用 ②部活動指導員の任用
 ③スポーツクラブとの連携（活動推奨含む） ④学生ボランティアの活用
 ⑤中体連等の大会参加取りやめ ⑥休日の活動時間削減（活動中止も含む）
 ⑦一部の部活動廃止 ⑧全面廃止
 ⑨その他（ ）

2-3. 部活動改革について取り入れたいと考えているものを選んでください。（複数選択可）→幼稚園・小学校は調査対象外となります。

- ①外部指導者（部活指導員ではない）の任用 ②部活動指導員の任用
 ③スポーツクラブとの連携 ④学生ボランティアの活用
 ⑤中体連等の大会参加取りやめ ⑥休日の活動時間削減（活動中止も含む）
 ⑦一部の部活動廃止 ⑧全部活動の廃止 ⑨その他（ ）

2-4. 学校として将来的に、部活動はどのように位置付ければよいとお考えでしょうか。→幼稚園・小学校は調査対象外となります。

- ①場所も含め学校とは切り離れた活動にする
 ②場所は提供するが外部指導者等を入れ、活動には教員は関わらない
 ③休日の活動のみ外部指導者等が入り、平日の活動は教員が何らかの形で関わる
 ④上記①や②を基本とするが、希望する教員がいれば認める
 ⑤教員の勤務時間を考慮し活動時間を短縮した上で継続
 ⑥部活動の数を減らし、活動日数は変えずに複数の教員が担当することで負担を減らす
 ⑦現状のままでよい ⑧その他（ ）

2-2 部活動改革について取り入れているもの（複数選択可）

	全体		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①外部指導者（部活指導員ではない）の任用	26	29	19	23	5	0	1	5	0	0	1	1
②部活動指導員の任用	27	18	20	15	4	2	2	1	1	0	0	0
③スポーツクラブとの連携（活動推奨含む）	6	3	4	1	0	0	1	2	1	0	0	0
④学生ボランティアの活用	17	7	11	5	1	0	0	2	3	0	2	0
⑤中体連等の大会参加取りやめ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥休日の活動時間削減（活動中止も含む）	32	15	23	12	3	0	1	3	1	0	4	0
⑦一部の部活動廃止	12	9	7	9	3	0	1	0	0	0	1	0
⑧部活動の全面廃止	4		2		0		0		2		0	
その他（※）	5	9	5	4	0	1	0	0	0	4	0	0
合計	130	90	92	69	16	3	6	13	8	4	8	1
調査対象校数	104	100	54	53	10	5	3	7	33	28	4	7

※その他

【中学校】

- ・市との連携で、休日の部活動地域移行に参加している。
- ・令和9年度夏以降全面廃止
- ・平日の活動時間を削減
- ・学校説明会等で部活動は重視していないことを説明し、学校の考え方について理解をしてもらっている。
- ・吹奏楽については楽団と連携

2-3 部活動改革について取り入れたいと考えているもの（複数選択可）

	全体		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①外部指導者（部活指導員ではない）の任用	26	17	21	13	3	2	1	1	0	1	1	0
②部活動指導員の任用	25	5	18	3	2	1	3	1	1	0	1	0
③スポーツクラブとの連携	16	8	12	6	1	1	2	1	1	0	0	0
④学生ボランティアの活用	24	7	18	6	2	0	1	1	1	0	2	0
⑤中体連等の大会参加取りやめ	7	6	6	4	0	0	0	2	0	0	1	0
⑥休日の活動時間削減（活動中止も含む）	18	17	11	13	3	2	3	1	1	1	0	0
⑦一部の部活動廃止	16	13	13	11	2	1	1	0	0	0	0	1
⑧全面廃止	17	4	12	4	0	0	0	0	2	0	3	0
その他（※）	6	6	6	3	0	0	0	1	0	1	0	1
合計	155	83	117	63	13	7	11	8	6	3	8	2
調査対象校数	104	100	54	53	10	5	3	7	33	28	4	7

※その他

【中学校】

- ・平日の活動時間の縮小
- ・平日の部活動日数の削減
- ・土日はすでに③で対応できているので、平日について①②④も進めていきたい。
- ・令和7年度末をもって部活動は廃止と決定。保護者、新入生にも説明済み
- ・昨年度から、部活動保護者会長会を発足させ、保護者が中心となって部活動を運営できる方向で動けるようにしている。

2-4 学校としての将来時な部活動の位置付け

	全体		中学校		高等学校		中等教育		特別支援		義務教育	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
①場所も含め学校とは切り離れた活動にする	16	24	13	17	1	1	0	3	0	3	2	0
②場所は提供するが外部指導者等を入れ、活動には教員は関わらない	20	14	13	10	1	1	0	1	4	0	2	2
③休日のみ外部指導者等、平日の活動は教員	5		4		1		0		0		0	
④上記①や②を基本とするが、希望する教員がいれば認める （R5）希望があれば学校での活動を認め練習時間や大会参加は教員の裁量に委ねる	16	11	11	11	2	0	3	0	0	0	0	0
⑤教員の勤務時間を考慮し活動時間を短縮	10	17	6	10	3	3	0	2	1	1	0	1
⑥部活動数の減、活動日数は変えずに複数の教員が担当	2		2		0		0		0		0	
⑦現状のままでよい	5	4	2	1	1	0	0	0	2	3	0	0
その他（※）	1	5	0	2	1	0	0	1	0	1	0	1
合計	75	75	51	51	10	5	3	7	7	8	4	4
調査対象校数	104	100	54	53	10	5	3	7	33	28	4	7

※その他

【高等学校】

・基本的になくす

○部活動改革が一定程度進んできており、中学校1校を除いては何らかの部活動改革の取組を実施している。また、中学校31校、高等学校7校、中等教育学校3校、特別支援学校3校、義務教育学校3校では複数の取組を実施しており、特に中学校では改革が進んでいる。全体的には、「部活動指導員の任用」

「学生ボランティアの活用」「休日の活動時間削減（活動中止も含む）」の取組が大きく増加した。

○部活動の全面廃止をしている学校も4校あり、一部の部活動の廃止も含めると16校が何らかの形で部活動を廃止している。

○部活動改革で取り入れたいと考えているものとしては「部活動指導員の任用」「スポーツクラブとの連携」「学生ボランティアの活用」「全面廃止」が前年度と比較して2倍以上増加した。これらは取組事例が示されるなど一定の情報交換が行われた中で関心が高まったことによるものと思われ、中学校は特に関心が高い。全体としても昨年度の83件から155件と実施してみたい取組が大幅に増え、課題意識の高まりが見られた。

○学校としての将来的な位置付けについては、「場所も含め学校とは切り離れた活動にする」は24校から16校に減っている。このことは、学校が部活動を教育活動から切り離すのではなく、一定の距離を保ちながらも緩く繋がっていくことが見直されてきていると解釈できよう。一方、指導体制については、「教員の勤務時間を考慮し時間を短縮」は17件から10件に減り、新たに設けた項目の「部活動数の減、活動日数は替えずに複数の教員が担当」は2件となっており、対処療法的な手法では部活動改革は不十分であることが読み取れる。「場所は提供するが外部指導者等を入れ、活動には教員が関わらない」（14件から20件に増）や「希望する教員がいれば認める」（11件から16件）など実効性のある現実的な対応を進めようとしている学校が増えている。